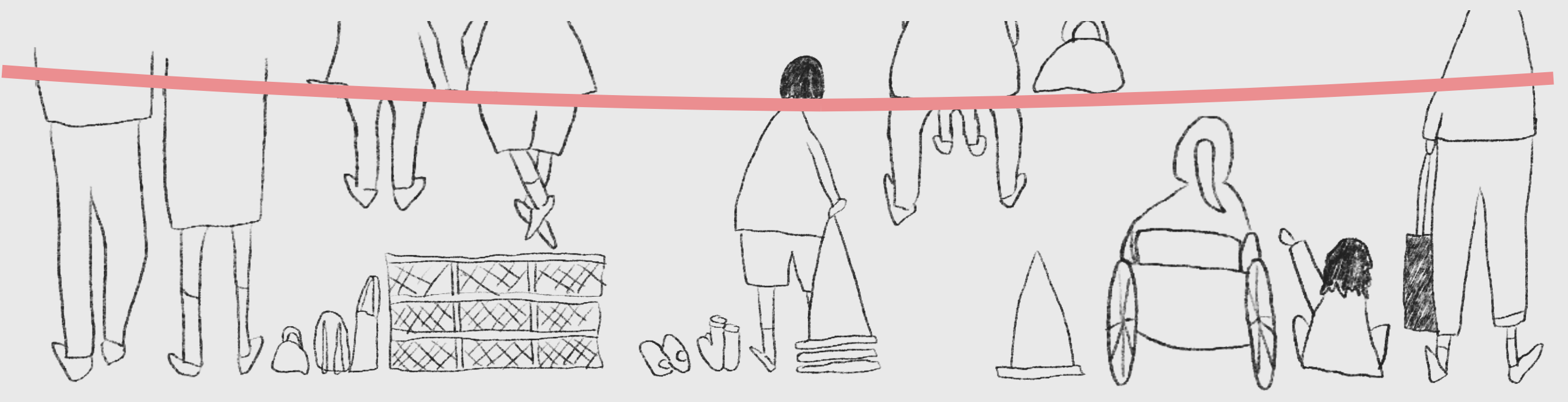




高い天井高に対して1200の高さに＜基準線＞を引くことで人やモノが集まり、いきいきとしたファサードが街を彩る。その＜基準線＞は辿ると東出入口へつながっていることに気付く。



敷地であるSHIBAURA HOUSEは天井高が5240mmと非常に高い建築であり、明るく開放的なつくりになっています。しかし、ガラス張りの空間はなんだか身体を預けておける場所がないために少し頼りないような印象を受けます。そんな一階のスペースにそとと身体に寄り添う線を描いてみようと思いました。

人とモノのための＜基準線＞のようなものです。

1200の高さに書かれたその線は、踊る人にとってはパフォーマンス空間の輪郭のように、鑑賞者には身をあずける家具のように、モノにとっては小さな居場所のように、それぞれによる多様な解釈を許すような空間を作ります。

自ら場所に意味を見つけ、場を立ち上げる(=Do it yourself)ことを許す寛容さこそがアクセシビリティを生み出すのではないのでしょうか。

青木廉+大山優+篠崎祐真+平澤美織

